

2 工 芸 部

2, 1 業務概要

- 垂水白土を利用した透光性磁器としての原土配合、泥彩化粧土等について試作研究をしたが、何れもまだ充分な成果を納め得ない。
- 苗代川の洗寿宮工場に保管されている往時の李朝系鉢数種の石膏型を復元再生して活用供した。
- 今年度は依頼図案が多く、徳利8種、花器55種、湯呑14種、桜花スケッチ8種等形、絵付用の意匠を配布し、その他手拭図案4種、観光物産館意匠相談室備付用陶磁器図案63図を作製した。
- 今年度も県、市、組合の共催で薩摩陶器新作発表会が開催され審査に当たったが、昨年度に比べて遙かに優秀な作品が多く、漸く業界の意欲も高まつて来たことは好ましいことであり、これが助長指導に努めたい。

業務担当者 部長 西 野 弘(兼)

寺 尾 作次郎

肥 後 盛 英

北 郷 タ メ

2. 2 試験研究

2,2,1 題目 垂水白土と天草石による透光性磁の試作について

肥 後 盛 英

前 が き

垂水白土単味では成形困難のため可塑性をあたえとともに透光性を安定化するために天草石を添加して三角座表にもとづき試験を行つた。

実 験 方 法

垂水陶石1号土、3号土はスタンプミルで20時間粉碎した後150メッシュの篩を通し水とを行つた。天草石は市販1級品をそのまま用いた。調合は三角座表により1号土100% 3号土100% 天草石100%で行つた。

施釉 SK7~9番、透明釉、

焼成火度 SK9~10番

焼成場所 登窯3の間、火前、酸化焰

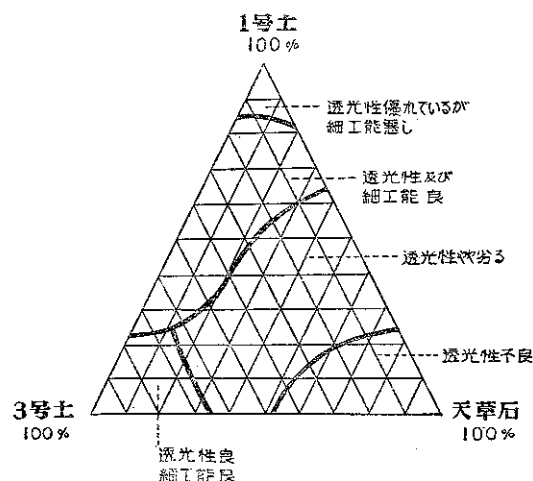
試 験 体

タテ 3cm

ヨコ 3cm

厚サ 0.6cm

粘土の細工能及び焼成品の透光性は次図のようになった。



結 び

粘土の可塑性は天草石>垂水1号>垂水3号の順となり磁化素地の透光性は垂水1号土>垂水3号土>天草石の順となるが透光性を持ち細工能にも劣らない素地は天草陶石30%以下垂水3号土70%以下垂水1号土80%以下の範囲である。

2,2,2 題目 透光性磁器用泥彩化粧土の試験

寺 尾 作次郎

〔目的〕垂水白土の透光性を利用した加飾法

〔試験の経過〕基礎生地の配合(1号垂水白土40% 2号垂水白土50% 指宿白土10%)

泥彩化粧土の配合

記 号	A	B	C
調合品名			
基礎生地土	100	100	100
酸化コバルト	7		
酸化クロム		10	
伊セ久の紅柄			7.5
呈 色	青 色	緑 色	鉄 色
品 位	良	良	良

上記3種の調合物を夫々別にポットミルでよく粉碎した泥彩化粧土を準備しておき、更に基礎生地土で20種類の鉢を仕上げて小ロクロの土に伏せ、廻しながら外側に